

## 養成校における音楽教育（1）

—シラバスの比較から—

白倉 朋子

(大阪城南女子短期大学)

### I 問題

乳幼児期における音楽経験が、感性を育て、心豊かな人間形成に寄与することは自明のことである。わが国では、幼稚園が創設された明治期以来、唱歌・遊戯・唱歌遊戯・表情遊戯・律動遊戯・音楽・リズム・音楽リズム・表現などという名称のもと、現場での音楽教育は、常に保育内容の一部を担ってきたといえる。そしてその目的・方法・教材は移り行く時代とともに変遷を遂げている。その変遷を追い、養成校における音楽教育の在り方を検討していく必要があることは言うまでもない。

養成カリキュラムにおける音楽教育には、指定科目とされているものと、養成校独自で開講している科目とがある。このうち指定科目を大きく捉えると、現行の幼稚園教育要領における「表現」と言われる保育内容の側面と、それを担うための基礎力を育成する、声楽や、ピアノを主とする器楽などの実技科目の側面に分類される。

昨今、養成校に入学してくる学生は、音楽経験に乏しく、ピアノを習った経験が全くないという者も珍しくない。一方、現場のニーズは益々多様になり、質の高い、また、幅の広い保育者の音楽能力が要求されている現状に直面している。このような中、各々の養成校が工夫を凝らし、様々な独自の音楽教育カリキュラムを生み出している。これらの現状を踏まえて、如何なるカリキュラム、また教育方法が必要とされているのか、今一度見直しを図る必要があると考えられる。

### II 方法

近畿圏の大学2校、短期大学4校を対象に、シラバスの比較を通して、保育士資格、及び幼稚園教諭免許の取得に必要とする音楽教育のカリキュラムと教育内容について検討し、学生と現場のニーズに融合する音楽教育の在り方への方向性を探る。

### III 結果

各短期大学に見られる音楽教育カリキュラム

( ) は単位数

#### A 短期大学

保育内容 表現Ⅰ(2) 音楽Ⅰ(1) 音楽Ⅱ(1)

#### B 短期大学

保育内容の研究(幼児の表現)Ⅰ(2) 保育内容の研究(幼児の表現)Ⅱ(2) 音楽理論(2)  
音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) ピアノ奏法Ⅰ(2)  
ピアノ奏法Ⅱ(2) リトミック(1)

#### C 短期大学

表現Ⅰ(音リ)(1) 総合音楽(2)  
ピアノ演奏法Ⅰ(2) ピアノ演奏法Ⅱ(2)  
声楽Ⅰ(2) 声楽Ⅱ(2) 器楽(1)

#### D 短期大学

保育内容(総合表現)(2) 音楽(ピアノⅠ・声楽)  
(2) ピアノⅡ(2) 弾き歌い(2)

### 短期大学におけるシラバス比較

共通に見られる科目

保育内容 表現・保育内容の研究(幼児の表現Ⅰ)・表現Ⅰ(音リ)・保育内容(総合表現)

音楽Ⅰ・ピアノ奏法Ⅰ・ピアノ演奏法Ⅰ・音楽(ピアノⅠ)  
ピアノ奏法Ⅱ・ピアノ演奏法Ⅱ・ピアノⅡ

音楽Ⅱ・音楽Ⅰ・声楽Ⅰ・音楽(声楽)・音楽Ⅱ・声楽Ⅱ

それぞれ科目の名称は異なるが、4つの短期大学全てに共通して見られる科目内容は、保育内容の表現について学ぶもの、ピアノ実技について学ぶもの、そして発声を始めとする声楽に関する科目であった。

ピアノ実技については、子どもの表現・リズムに使う曲を中心に学習させているところと、バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタといった従来のピアノテキストを用いている短期大学がある。また声楽についても、基礎となる発声から、子どもの歌を中心としたテキストを教材にしているところがほとんどであるが、中には専門的な声楽曲の指導をされているところもあるのである。さらに、コンコーネやコーリューブングンのようなソルフェージュの教材も声楽の科目に含んでいる場合もある。

共通して見られない科目

リトミック 音楽を身体で表現することや、音楽感覚を育てるためのリズム指導について学生

器楽	が実際に体験しながら理解を深めていく 鼓笛のリズム練習・合奏を通して、楽器の性能、保守管理に留意して、楽器奏法に習熟する
総合音楽	「楽典」を中心にすえて、「音楽史」「伴奏付け」「創作」等を加味し、より広く音楽をとらえて幼児教育者としての音楽活動を豊かにしていく
弾き歌い	幼稚園・保育所で歌われる曲やマーチを数多く習得する。三和音での伴奏付けから、次第に正確なメロディー・リズムに美しい声での弾き歌いを学習する

ここでは、他の学校において同じ内容を含んでいるものもあるが、独立した科目を置き、さらに工夫された、充実した内容をもつと考えられるものを挙げた。

音楽Ⅰ・音楽Ⅱについては、幅の広い内容を持ち、A短期大学の音楽Ⅰについては、ピアノ実技に加えて、音楽理論や弾き歌いといった分野も含んだ総合的な学習を目標としており、音楽Ⅱは、声楽、合奏という内容のものである。またB短期大学の音楽Ⅰ・Ⅱにおいても、声楽と器楽合奏の内容を含んでいる。さらにC短期大学のピアノ演奏法Ⅰ・Ⅱでは、弾き歌いも課題に入っている。

音楽理論を学ぶ内容を含む科目が全くないのは、D短期大学だけであった。しかし三和音の伴奏付けについては、その理論も含めて弾き歌いにおいて学習できると思われる。

合奏についてはギター・打楽器・リコーダーを中心に行っているところ、また、鍵盤ハーモニカとさまざまな打楽器での形態、そして鼓笛隊としての合奏を主に行っているところなど、それぞれの学校において学生が様々な楽器での合奏を体験していることがわかった。

#### 各4年制大学に見られる音楽教育カリキュラム

A大学	( )は単位数 保育内容 表現Ⅰ(2) 音楽理論(1) 声楽(1) 器楽(2) 幼児音楽(1)
B大学	保育内容指導法 表現AⅠ(1) 保育内容指導法 表現AⅡ(1) 音楽理論1(1) 音楽理論2(1) 声楽1(2) 声楽2(2) 声楽3(2) 器楽1(2) 器楽2(2) 器楽3(2) 幼児音楽(1) 器楽合奏1(1) 器楽合奏2(1) リトミック1(1) リトミック2(1) 保育音楽療育概論(2) 保育音楽療育演習(2)

身体表現及び即興演奏法(2) 器楽活用法(2)  
保育音楽療育実習(3)

共通に見られる科目は短期大学とほぼ同じであるが、4年生大学における養成課程には、「幼児音楽」が加わっている。その内容は、A大学では、「音楽活動が楽しく意義深いものとなるように幼児に即した音楽教育の方法を見出し、幼児の音楽の方向性について考察する」というもので、B大学においては、「子どもの遊びと音楽をわらべ歌を軸に講義し、実習する、身体表現として舞踏を分析し、表現する」となっている。

B大学に見られる、リトミック指導者、また、保育音楽療育士の資格を取得するための科目についてはここでは採りあげないことにする。

#### IV 考察

4年制大学は、短期大学の倍の学習期間があるため、音楽教育に関するカリキュラムもその分多くなり、中には理論的な講義内容も含まれているように思われる。

それに比べて、短い期間で養成しなければならない短期大学では、ピアノの実技の中に弾き歌いや、音楽理論も取り入れたり、声楽と器楽合奏をまとめ、さらにそこにソルフェージュまで入れたり、一つの科目の中でできるだけ幅の広い学習ができるようにそれぞれの学校が、内容を工夫している様子が伺える。しかし、一方では、器楽、総合音楽、弾き歌いなどという独立した科目を持ち、さらに内容の充実を図っている短期大学も見られる。

限られた授業時間内にあれもこれもとあまり多くのことを学ばせようとするのは、物理的にも無理を生じることもあり、学生が消化不良をおこすことにもなりかねない。学生が、現場に出てから必要とする音楽的な知識と技能を、いかにバランス良く、また効率良く学習できるかさらに考える必要があると思われる。

今回は、シラバスの上での比較検討にすぎず、その内容についての詳しい実態調査はできなかった。授業は生きたものであり、学生の質や反応によって、シラバスの計画通りにはそうそう進んでいけないのが現状である。また、個人指導が必要となるピアノ実技においては、その方法は益々多様であると考えられる。どのような形態で行われているのか興味のあることである。

以上のことを踏まえて、今後は、学生が学びたいと思っていることは何か、さらに、幼稚園・保育所において求められている知識や技能はどのようなものであるのか、現場からの声も調査したいと考えている。